

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300090		
法人名	有限会社 ほたるの里		
事業所名	三日月紀水苑		
所在地	佐賀県小城市三日月町織島4773-1		
自己評価作成日	平成24年10月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成24年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げ家族、地域との交流を深めるため、5月のほたる鑑賞会、又9月には、敬老会の催しを楽しんで頂くため広い苑庭を活用し、食事会や、余興などで楽しい時間を過ごしていただいています。利用者、家族の方が安心して頂けるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然に囲まれた静かな土地に立地しており、地域に開かれたホームとして地域住民との交流を日常的に行なわれている。広い中庭ではホテル鑑賞会や敬老会のイベント時以外にも四季折々の野菜や果物、花を入居者を中心に育てられたり、天気の良いときは日光浴を行ないながら体操をされている。入居者に対して尊厳の念を持って接し、家族とのコミュニケーションも積極的にとり、入居者が安心して過せるように努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	第1棟	第2棟			第1棟	第2棟	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホールの目に付くところに、掲示し、毎朝申し送り後、復唱し実践に取り組んでいる。	スタッフの目の届く所に理念を掲示し朝の申し送りの際、復唱しスタッフ全員が理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝申し送り時に復唱し、常に目に届く所に掲示されており、スタッフ全員が理念を共有し実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5月のほたる鑑賞会、9月の敬老会には、地域住民に案内状を配布し参加に呼びかけている。又中学生の、職場体験の受け入れを行い交流を図っている。	5月のほたる鑑賞会、9月の敬老会には、地域住民に案内状を配布し参加に呼びかけている。又中学生の、職場体験の受け入れを行い交流を図っている。	行事や避難訓練等の参加はもちろんのこと、日常的に散歩の時間にお互い挨拶をしたり、野菜の差し入れを頂いたり地域と良い関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小城市北部のグループホーム部会に参加し、地域の高齢者の現状などを聞きだして話あいを、行っている。	小城市北部のグループホーム部会に参加し、地域の高齢者の現状などを聞き出して話あいを、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題に応じて、出席者の方々に意見、応答を行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の議題に応じて、出席者の方々に意見、応答を行いサービスの向上に活かしている。	行事の際に開催し、参加しやすいように取り組まれている。会議内容についてスタッフにはミーティングの中で報告しサービス向上に努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の代行の手続きや生活の支援相談、小城市北部グループホーム部会の参加などにて、連携を図っている。	利用者の代行の手続きや生活の支援相談、小城市北部グループホーム部会の参加などにて、連携を図っている。	地区のグループホーム部会を2ヶ月毎に開催し、そこで情報交換ができています。また、地域包括支援センターが運営推進会議や部会に参加され、相談しやすい体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	FC、苑の勉強会などで指導し、マニュアルの作成、又職員の目の届く所に「身体拘束ゼロ宣言」を掲げている。	「身体拘束ゼロ」を掲げ勉強会や研修等を通じて理解を深めている。	「身体拘束ゼロ宣言」を掲げ、勉強会や研修会等でスタッフの理解を深められている。またやむを得ず行う場合の対応も整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	FC、苑の勉強会などで指導し、マニュアルの作成、虐待防止に努めている。	FC、苑の勉強会などで指導し、マニュアルの作成、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	FC勉強会で学び小城市福祉課の調査時などの話し合いの場を設けている。	FC勉強会で学び小城市福祉課の調査時などの話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明を行い、家族本人の要望を取り入れ納得をして頂いた上で、安心して入居頂けるように努め、料金改正時には、説明を行い、同意を得ています。	契約時には、重要事項説明を行い、家族本人の要望を取り入れ納得をして頂いた上で、安心して、入居頂けるように努め、料金改正時には、説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は、苦情箱を設置し、面会時には、要望等を聞き、又電話による、コミュニケーションを取り、意見の反映に努めている。	運営推進会議の参加の呼びかけ管理者や職員、外部の人に意見や思いを伝えられる機会を作り、意見、要望等を運営に活かせるよう努めている。	意見箱の設置や家族会の結成など、家族の意見をくみ取りやすい体制が出来ている。また、普段より面会時の会話や電話連絡など密に行なわれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日リーダーを決め朝の朝礼にて申し送りを行い、月2回のスタッフ会議にて意見交換をし、又申し送りノート活用し意見の交換を行っている。	毎日リーダーを決め朝の朝礼にて申し送りを行い、月2回のスタッフ会議にて意見交換をし、又申し送りノート活用し意見の交換を行っている。	毎月棟会議や全体ミーティングを行なわれており、その中でスタッフの意見をまとめている。スタッフは意見交換がしやすい良い関係が築けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ホーム長による個人面談を行い、意見、要望を聞き、管理者を交え意見交換を行っている。	個別に面談を行い日頃の不安、要望を聞き向上心を持って働かせるような配慮や対応に努め、又休憩時間を徹底する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が技術や知識を身につくように研修の参加を働きかけている。又資格取得に会社がバックアップしている。	全職員が技術や知識を身につくように研修の参加を働きかけている。又資格取得に会社が全面的にバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への交流研修会への参加、他施設との合同勉強会への参加	月1回のFC勉強会に参加し、又系列による交流研修を通して他の施設の取り組み等参考にし質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションを図り不安、要望を聞き入れ、安心して生活できるよう支援している。	相談から利用に至るまで本人が困っている事、不安な事求めている事などを本人自身から聞く機会を作り受け止めるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族の方に来て頂き、苑の雰囲気など見て頂き、家族の要望、不安点に耳を傾けている。	入居前に御家族の方に来て頂き、苑の雰囲気など見て頂き、家族の要望、不安点に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、十分に本人と、ご家族の意見を取り組み、利用者に合わせた他のサービスの提供も行っている。	相談を受けた際は、十分に本人と、ご家族の意見を取り組み、利用者に合わせた他のサービスの提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を活かし、出来ることを見つけ共に喜び、次のステップに向け、向き合い支援を行っている。	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族の方には、毎月ほたる通信、担当者による生活状況を記入し送付、月の状況を知って頂けるよう支援しています。	利用者家族の方には、毎月ほたる通信、担当者による生活状況を記入し送付、月の状況を知って頂けるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を定めないことにより、気楽に面会に来て頂けるように努め、家族、友人への電話の取りつぎ、友人の面会も行っている。	面会時間を定めないことにより、気楽に面会に来て頂けるように努め、家族、友人への電話の取りつぎ、友人の面会も行っている。	面会は自由で家族や友人はいつでも来られ、電話の取次ぎもされている。以前より行きつけの美容室に家族・スタッフで協力して行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会、レクレーションなど全員で行い、利用者同士の関係を深めて頂けるよう支援しています。	利用者間の、関係の理解に努め会話を広げる橋渡しの役になったり、誕生会やレクレーションを通して利用者同士の交流の場を作るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の相談など受け助言を行い、その後も面会をし経過を見守っています。	お礼状や手紙が来た場合には返信するように努め又必要に応じて相談窓口となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に各担当者が要望を聞きだしその都度見直しを行っている。意思疎通が難しい入居者には、その家族にて希望を聞きとりいれにて対応	定期的に各担当者が要望を聞き又家族にも要望を聞き検討し対応している。	入居者の意向を尊重できるよう日ごろのコミュニケーションの中からの思いをくみ取り、手作業や一緒に買い物に行くなど対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時今迄の生活歴を聞き出し馴染みのある生活環境を行い家族より情報取り入れサービスに努めている。	入居時今迄の生活歴を聞き出馴染みのある生活環境を行い家族より情報を取り入れサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月2回の会議にてケアカンファレンスを開きスタッフ全員で話し合い入居者の現状の把握に努めている。	朝の申し送りの際夜間帯の様子又日中の対応の仕方等その日のリーダーが指示を出しスタッフ全員が現状は把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価、モニタリングを行い、入居者、家族の要望聞き担当者会議で意見を出し合い介護計画書の作成をし、状態の変化があった時は、カンファレンスを開き状態に応じた介護計画を作成している。	本人がより良く暮らす為の課題やケアのあり方についてカンファレンスを通して気づきや意見アイデアを出し合い話し合った結果をもとに介護計画を作成している。	入居者や家族に意向聴取し、それを踏まえ担当者会議で検討し、入居者の状態に合わせたケアプランを作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録を個別に記入し変化があった際は、申し送りノートを活用し、スタッフ全員に周知し、棟会議にて、ケアカンファレンスにて介護計画の見直しに活かしている。	カンファレンスを通して情報を共有している。又伝達ノートを活用し日々の変化や受診結果気づきを回覧するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の協力病院の確保、及び体験入居など出来るように備えている。	緊急時の協力病院の確保、及び体験入居など出来るように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、委員のかたの意見を聞き、情報を得て、活用し、地域の方との交流を深め、いつでも遊びに来て頂けるよう、支援している。	本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア、警察、消防等と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の連携は、月1回の訪問診療、受診、入院、緊急時にも対応できるように協力病院を設けている。	医療の連携は、月1回の訪問診療、受診、入院、緊急時にも対応できるように協力病院を設けている。	協力医療機関とは月1回の往診と、緊急時にも対応が出来るよう体制を作られている。入居者等が希望される際は協力医療機関以外のかかりつけ医とも連携を図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が勤務し日常の健康管理や受診の支援をしている。	かかりつけ医院との連携を密にとり気楽に相談できるよう体制に整えられている。月1回の訪問診療の際には入居者の普段の状態や個別の状況を詳しく説明し又相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の入居者に対しては、家族や入院先の看護師などと情報交換、医師、本人、家族との退院計画などの話し合いを行っている。	本人のストレスや負担を軽減する為に家族に相談しながら医療機関に対して情報の提供やケアについて話し合いに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書の中で、重度化した場合、終末期の指示説明し同意を得ている。	早期から本人、家族等かかりつけ医院等と話し合いを組んで家族の意向を確認しながら支援している。	入居時の契約の中で、終末期や重度化された場合にホームが対応できること対応できないことを伝え、可能な限りホームで支援を行なうが、状況に応じ病院や施設を紹介されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議、FC合同勉強会などで学ぶ機会を設け、訓練も行い実践力を身に付けている。	スタッフ会議、FC合同勉強会などで学ぶ機会を設け、訓練も行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、自治会長、民生委員、地域の参加にて夜間、昼夜の訓練を行い全職員が身につくよう体制を築いている。	消防署立ち会いのもと、自治会長、民生委員、地域の参加にて夜間、昼夜の訓練を行い全職員が身につくよう体制を築いている。	火災想定避難訓練を消防署や地域住民が参加し年2回行なわれている。避難場所・経路は全スタッフ周知できている。	火災以外の災害に対しての体制作りを検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方には、常に尊厳の念を持って接するようにと指導し、排泄の声掛け誘導の際はさりげない声掛けを行い、プライベートカーテンは、必ず閉めるように指導しています。	利用者の方には、常に尊厳の念を持って接するようにと指導し、排泄の声掛け誘導の際はさりげない声掛けを行い、プライベートカーテンは、必ず閉めるように指導しています。	全スタッフが入居者に対し尊厳の念を持ち、声かけや対応には注意し入居者に優しく接されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の買い物の要望がある場合は一緒に出かけたり希望を取り入れている。	食事の準備や、献立の作成時には希望を聞き、取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の上下肢訓練やレクリエーションの参加は、無理に誘わず自己決定して頂いて食事や入浴も十分な時間を設け、本人のペースにあわせている。	毎日の上下肢訓練やレクリエーション参加は、無理知恵せず、本人のペースに合わせ、希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時一緒に衣類を選んだり、希望があれば、衣類の購入を一緒に行く支援をしている。	ホール内には大きな洗面だを設置し洗面時には、身だしなみの声かけや介助するように努めている。又入浴の際は本人の好みの衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際入居者の希望を聞きメニューに取り入れ、又食器拭き、食事の下ごしらえ等職員と一緒にしている。	入居者に応じて食事形態もあつた物を提供し、片付け等職員と一緒にしている。	入居者の出来る能力に合わせて準備や片付け、調理の下ごしらえをスタッフと一緒にされている。また、園芸で作られた野菜や果物を献立に取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合った食事形態を提供し、食事摂取量、また水分摂取量など記録に残し一人ひとりの状態が解るよう支援している。	一日の食事の摂取量、水分量はチェックするようにし一人ひとりの体調管理につとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者の能力に合わせて行い、週1回の歯科の訪問診療にて、指導を受けている。	毎食後口腔ケアを行い、寝る前には、義歯の洗浄をし口臭等にも配慮している。週1回の歯科の訪問診療の際相談治療をしえんしている。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄チェック表に記入し排泄パターンを理解し誘導を行い、うまくいかない場合は本人が落ち込まないように配慮を行っている。	排泄チェック表に記録することで一人ひとりの排泄のパターンを把握し事前に声かけする等自立に向け支援している。	個人の排泄パターンを把握するため排泄チェック表で記録を行い、一人ひとりの排泄パターンに合わせて支援を行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給を行い、便秘ツボの運動などで予防に努め、薬の調節など本人に応じた予防を行っている。	水分量をチェックし便秘予防に努め毎日の運動の中に腹部のマッサージやつぼ押しなどを取り入れ働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴だが、希望があれば毎日でも入れるようにしている。順番も配慮を行っている。又体調、希望に応じて時間をきめている。	本人が快く入浴して頂けるよう声かけを行い拒否があった場合は、時間をあげ再度声かけや翌日にずらす等をし無理強いをしないようにつとめている。	毎日入浴できるように体制を整えられており、入居者の希望や体調に合わせて柔軟な対応を行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間などは定めずに、好きな時間までに談話したりテレビ視聴したりして頂けるようにし、巡回時も安眠の妨げにならないように考慮している。	一人ひとりのその日の体調等も配慮し休息など促すよう努めている。安眠できるよう居室の温度や暗さにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を一覧にし職員が把握できるようにし、飲み忘れ、誤薬を防ぐため服薬袋に、名前、日付け、朝、昼、夕、の色分けし事故防止に努めている。	薬目的や副作用を一覧にし職員が把握できるようにし、飲み忘れ、誤薬を防ぐため服薬袋に、名前、日付け、朝、昼、夕、の色分けし事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で使用していたタンスなど、居室で使用して頂き、趣味の縫物や編み物して頂いたり、食事の下ごしらえや、茶わん拭き、洗濯物たたみなど支援をしています。	入居者の生活のレベルに合わせて役割分担を行っている。孤立しないよう心がけスタッフの方から声かけ一緒に取り組む等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて買い物に付き添ったり、家族との外出にも支援し、天気の良い日は、近隣の散歩に出かけたり、苑庭で日光浴などの支援。	天気のよい日は、苑庭又は苑外に出て散歩などを行っている。希望があれば買い物等にも同伴し要望にこたえられるよう努めている。	家族とスタッフが協力して外出の支援をされ、日常的に入居者の意向に合わせて散歩や買い物を行なわれている。また、花見等のイベント時にも出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を所持され、買い物と一緒にいく支援をしている。	希望や力に応じてお金を所持され、買い物と一緒にいく支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の引き継ぎを行ったり、年賀状は、本人の自筆をできる限り活用して家族に送付している。	電話のとりつぎ等は快く行っている、本人の要望があれば電話をかけることも自由に行っている。年賀状の代筆する等しえんしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室などは、室温に気を使い、季節感に応じて、壁絵を張り替え、苑庭には、季節ごとの、花や、木を植えています。	ホールや居室などは、室温に気を使い、季節感に応じて、壁絵を張り替え、苑庭には、季節ごとの、花や、木を植えています。	室温や湿度は過ごしやすいように換気・加湿などスタッフが調整されている。ホール内は季節や行事ごとに壁紙や花等を飾られ、苑庭には季節の野菜や果物を植えられており、季節を感じやすい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを設け利用者の気の合った同士の会話ができるよう工夫している。	ホールには、ソファを設け利用者の気の合った同士の会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのものを使って頂き、又希望に応じて仏壇も置いたり、過ごしやすい工夫をしている。	居室には、馴染みのものを使って頂き、又希望に応じて仏壇も置いたり、過ごしやすい工夫をしている。	慣れ親しんだ家具や仏壇などの持ち込みや、家族等の写真の掲示を自由にでき、居心地良く安心して過ごせるように取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口には、入居者が解るように工夫したり、ベットにて危険のある人は、畳に変更したりして状態に合わせた工夫をしている。	トイレの入り口には、入居者が解るように工夫したり、ベットにて危険のある人は、畳みに変更したりして状態に合わせた工夫をしている。		